



LIVエンジニアリング株式会社

2015年度環境活動レポート

(対象期間:2015年6月～2016年5月)



作成日: 2016年7月10日



LiVエンジニアリング株式会社

環境方針

<環境理念>

近年、地球の温暖やボーダーレスの大気汚染等の問題が顕著になっており、美しい地球と安全で住みやすい地域環境を次世代に残すため、本業である電気設備工事業の設計・施工を通じて、二酸化炭素と廃棄物排出量の削減及び資源の有効活用に全社員・協力業者一丸となり、積極的に取り組みます。

[環境方針]

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 事業所及び建設現場における電力と化石燃料の使用量を削減し、二酸化炭素排出量を削減します。
3. 事業所及び建設現場において、一般及び産業廃棄物の排出を抑制すると共に分別と再生利用を推進します。
4. 事業所及び建設現場における水使用量を削減します。
5. 事務用品のグリーン購入と資材・原材料のグリーン調達に努めます。
6. 電気設備工事の設計、施工にあたり省エネ照明器具をはじめとする省エネ機器の使用を提案し、事業活動に伴う環境改善に努めます。
7. 地域での環境保全活動に積極的に参加します。

制定日：2015年7月10日

代表取締役社長 橋本剛志

□組織の概要

(1) 名称及び代表者名

LiVエンジニアリング株式会社
代表取締役社長 橋本 剛志

(2) 所在地

本社 〒664-0007 兵庫県伊丹市北野6丁目7番地13 (登記上)
事務所 〒664-0022 兵庫県伊丹市中野東3丁目130番

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 専務取締役 山本 拓一 ☎072-785-9114
担当者 業務部 若狭 リエ ☎072-785-9114

(4) 事業内容

電気設備工事・電気通信工事・空調設備工事・電信電話架設工事・
防災・防犯設備工事・管工事の設計及び施工

(5) 事業の規模

売上高(2015年度) 581百万円
主要工事件数 9件

	本社	事務所	合計
従業員	0名	17名	17名
敷地面積	295㎡	231㎡	526㎡

2016年5月31日現在

(6) 事業年度

6月～5月

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名: LiVエンジニアリング株式会社

対象事業所: 事務所

活動: 電気設備工事・電気通信工事・空調設備工事・電信電話架設工事・
防災・防犯設備工事・管工事の設計及び施工

□主な環境負荷の実績

全社

項目	単位	2014年	2015年	2016年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	13,371	18,965	
廃棄物排出量	kg	796	688	
一般廃棄物量排出	kg	796	688	
産業廃棄物排出量	kg	10	0	
総排水量	m ³	56	73	

(注) 購入電力の二酸化炭素排出係数: 0.522kg-CO₂/kWh

(関西電力の2013年度実排出係数)

事務所

項目	単位	2014年	2015年	2016年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	12,005	13,609	
廃棄物排出量	kg	796	688	
一般廃棄物量排出	kg	796	688	
総排水量	m ³	56	73	

建設現場

項目	単位	2014年	2015年	2016年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	1,366	5,356	
廃棄物排出量	kg	0	0	
産業廃棄物排出量	kg	10	0	

※ 化学物質の使用および保管管理はなし

□環境目標・実績

全社 ※ 化学物質の使用および保管管理はなし

項目		年度	基準値	2015年		2016年	2017年
			(2014年)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力の二酸化炭素排出量削減 CO2換算係数0.522	kg-CO2		3,458	5,187	4,184	4,149	4,115
	基準年度比	(2014年)		150%	達成率 124%	120%	119%
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2		9,913	18,285	14,781	14,729	14,630
	基準年度比	(2014年)		184%	達成率 124%	149%	148%
上記二酸化炭素排出量合計		kg-CO2	13,371	23,471	18,965	18,879	18,745
一般廃棄物の削減	kg		796	788	688	685	677
	基準年度比	(2014年)		99%	達成率 115%	86%	85%
産業廃棄物の削減		kg					
水道水の削減	m ³		56	84.6	73	72	71
	基準年度比	(2014年)		150%	達成率 116%	128%	126%
事務用品の環境配慮	個		36	48	54	60	72
	基準年度比	(2014年)		133%	達成率 113%	167%	200%
環境配慮設計・施工の提案	件		0	1	0	1	2
	基準年度比	(2014年)			達成率 0%		

(注) 目標達成率(%) = 目標 / 実績 × 100とし、100%以上で達成とする。

事務所

項目		年度	基準値	2015年		2016年	2017年
			(2014年)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力の二酸化炭素排出量削減 CO2換算係数0.522	kg-CO2		3,458	5,187	4,184	4,149	4,115
	基準年度比	(2014年)		150%	達成率 124%	120%	119%
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2		8,547	12,821	9,425	9,402	9,316
	基準年度比	(2014年)		150%	達成率 136%	110%	109%
上記二酸化炭素排出量合計		kg-CO2	12,005	18,007	13,609	13,551	13,431
一般廃棄物の削減	kg		796	788	688	685	677
	基準年度比	(2014年)		99%	達成率 115%	86%	85%
水道水の削減	m ³		56	84.6	73	72	71
	基準年度比	(2014年)		150%	達成率 116%	128%	126%
事務用品の環境配慮	%		36	48	54	60	72
	基準年度比	(2014年)		133%	達成率 113%	167%	200%
環境配慮設計・施工の提案	件		0	1	0	1	2
	基準年度比	(2014年)			達成率 0%		

建設現場

項目		年度	基準値	2015年		2016年	2017年
			(基準値)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力の二酸化炭素排出量削減 CO2換算係数0.522	kg-CO2						
	基準年度比						
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2		1,366	5,464	5,356	5,327	5,314
	基準年度比		(2014年)	400%	達成率 102%	390%	389%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2		1,366	5,464	5,356	5,327	5,314
産業廃棄物の削減	kg						
	基準年度比						

(注)主に下請のため、電力、水は元請から支給される

※「産業廃棄物の削減」については、建設現場の電力・水・産業廃棄物・工事資源等は、元請管理や客先支給である為、環境目標に設定していない。

注記

1. 化学物質は使用及び保管が無い為、環境方針・環境目標を策定しておりません。
2. 電力の二酸化炭素排出量削減目標は、建設現場は下請け工事であり、元請管理或いは客先支給である為、事務所だけで環境目標を策定しております。
2015年度は受注件数が増加し、今後元請工事を受注する見込みがある為、従業員数を急遽1.5倍に増員しました。
その為、数値目標を2014年度実績値の1.5倍に見直しました。
3. 建設現場の二酸化炭素排出量削減目標は、2015年度の受注工事量増加に伴い現場工事車両数が2倍に増加した為、数値目標を2014年度の実績値の2倍に見直しました。
また遠方現場が基準年度に比べ2倍に増加した為、数値目標を2014年度の実績値の4倍に見直しました。
4. その他の数値目標は、2014年度の実績値を基準に策定しております。
5. 建設現場での環境負荷(電気・水・産業廃棄物・工事資材等)は、元請管理又は、客先支給である為環境目標を策定しておりません。尚、今後元請工事を受注した際には実績を把握して、環境目標を策定して取り組む準備をしております。

□環境活動の紹介

◆地域貢献活動風景

☆出勤時間前に
集合し、会社周辺
の清掃活動を行いました！冬はオリジナル
ブルゾン、夏はオリジ
ナルTシャツを着て活動



◆事務所屋根 太陽光パネル

☆屋上一面に敷き詰められた自慢の太陽光パネルたち！



□環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

事務所

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	継続/変更	評価と次年度の取り組み内容
電力による二酸化炭素排出量の削減			
数値目標	○	■上方修正 □下方修正 □基準見直し □維持	
・夜間、休日の待機電力の削減	○	継続	継続的な取り組みにより、目標を達成することができた。 次年度は、1回/月ノ一残業デーを設け、更に操業時間を短縮し、節電に取り組む。
・残業を減らす(作業の効率化)	△		
・空調の適温化(冷房28度、暖房20度)	○		
を徹底する	○		
自動車燃料による二酸化炭素排出量の削減			
数値目標	○	■上方修正 □下方修正 □基準見直し □維持	
・急発進、急加速をしない	○	継続	目標値の見直しにより、目標達成することができた。今後は車両ごとのエコドライブ方法も学習し環境に配慮するよう指示した。
・駐停車中のエンジン停止を励行	△		
・タイヤの空気圧を適正に保つ	○		
・ハイブリッド車への更新	◎		
一般廃棄物の削減			
数値目標	○	■上方修正 □下方修正 □基準見直し □維持	
・リサイクルしやすい製品の購入	○	継続	総排出量について約13%の削減ができた。今後も継続して目標達成手段に取り組むよう呼び掛けた。
・無駄なコピーの削減	△		
・裏紙の使用	○		
・3S活動の推進	○		
水道水の削減			
数値目標	○	■上方修正 □下方修正 □基準見直し □維持	
・手洗い時、洗い物において少ない水量で洗う	○	継続	今後も継続して節水の取組を行い、目標を達成していくことにより、排水量削減に努める。
・洗浄時に適正量の洗剤を使用する	○		
・つけ置き洗いをする	○		
事務用品の環境配慮			
数値目標	○	■上方修正 □下方修正 □基準見直し □維持	
・エコマーク商品を計画的に購入する	○	継続	事務用品購入時は、今後も環境品を意識して購入するようにして、環境配慮に努める。
環境配慮設計・施工の提案			
数値目標	×	□上方修正 □下方修正 □基準見直し ■維持	
・LED化等省エネ機器の導入を提案	×	継続	今期も元請工事がなかったため、目標達成できなかったが、今後も元請工事があった際には、環境配慮の提案ができるよう、取組を意識しておく。
事業所周辺の清掃			
数値目標	○	□上方修正 □下方修正 □基準見直し ■維持	
・晴天時に事業所周辺を清掃する	○	継続	朝の事業所周辺の清掃、組合や地域の清掃活動、月1回の周辺の清掃を今後も行い、環境活動に努める。

建設現場

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	継続/変更	評価と次年度の取り組み内容
自動車燃料による二酸化炭素排出量の削減			
数値目標	○	■上方修正 □下方修正 □基準見直し □維持	
・急発進、急加速をしない	○	継続	目標値の見直しにより、目標達成することができた。今後は車両ごとのエコドライブ方法も学習し環境に配慮するよう指示した。
・駐停車中のエンジン停止を励行	△		
・タイヤの空気圧を適正に保つ	○		
産業廃棄物の削減			
数値目標	-	□上方修正 □下方修正 ■基準見直し □維持	
			取組期間中に元請業務がなく、産業廃棄物の発生はなかった。実施条件が不確定な為、次年度、この目標は削除する。

(注)主に下請のため、電力、水は元請から支給される

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動等)	判定
廃棄物処理法	各種工事から排出される木くず、混合廃棄物、金属くず、アスコン	遵守
建設リサイクル法	解体工事から排出される木くず	遵守
騒音・振動規制法	工事で使用する空圧機、バックホウ	遵守
NO _x ・PM法	工事で使用する貨物車、クレーン車、ミキサー車	遵守
オフロード法	工事で使用する大型及び小型特殊自動車、ダンプトラック	遵守
フロン排出抑制法	業務用エアコン	遵守
下水道法	公共下水道への接続管	遵守
グリーン調達基準	自治体、元請のグリーン調達基準	遵守

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありませんでした。

また、訴訟もありません。

□代表者による全体の評価と見直し

- ・「環境に配慮した設計・施工の提案」を除き、目標を達成した。
全従業員が一丸となって、この取組を継続し環境活動に努める。
- ・「自動車燃料の削減」については、目標値を見直すことにより目標を達成することができた。
次年度もCO₂や廃棄物の削減に努めるよう全従業員に周知を行い、継続して取組を推進する。
- ・全従業員に環境配慮活動が浸透し、環境経営の重要性について、より一層理解を深めることができた。
- ・全従業員が一丸となって環境パフォーマンスを創出し、
経営の継続的改善と環境改善を図ると共に環境方針を具現化し、
地球環境の保全に貢献する。